

ベイタウンニュース恒例
年男年女記念撮影 2007

新年、あけましておめでとうございます。

すっかり名物になった撮影会、今回は、大勢のイノシシ年さんが集まってくれたので初の2カット構成です。わがニュースの板東編集員も加わってにぎやか！実はお母さんのお腹の中にもイノシシ年の赤ちゃんがいるんですよ。いい年になりそうな予感！



亥年の人の性格は？

インターネットで亥年の人の性格を調べてみました。「向上心が高く忍耐強い率直な性格ですが、頑固も人一倍なのが亥年生まれの人です。一点に突き進む勢いがありますが勢いあまって暴走する傾向も見られます。時には立ち止まり辺りを見渡してじっくり考えることも大切です。」とありました。この写真に写っている方々が皆さん、そのような性格なののでしょうか。イノシシ年さん、いかがですか？



新春、年男年女インタビュー

(1面からつづく)



藤井喜則さん・さおりさん夫妻

22番街に2005年4月に入居。ベイトウンに引っ越す前は舞浜に住んでいましたが、前からこの街に住みたいと思い、当選したので移り住んでいらしたとか。お二人はディズニーシーのオープニングメンバーとして出会い、結婚。「今年のクリスマス伊ブで結婚5周年を迎えるので、今回の撮影はとても良い記念になりました」とのこと。ベイトウンニュースはいつも隅から隅まで読んでくださっているそうです。ありがとうございます！

(写真右) 向かって左から林はるかさん・真琴さん、白石路子さん

林はるかさん・真琴さん 白石路子さん

5番街にお住まいの林さんは親子で参加しました。林さんと11番街の白石さんとは、高洲四小時代の同級生で、ベイトウンで再会したそうです。白石さんは6月に出産予定、「無事出産できることが一番の願いです。その点、3人の娘さんを育てている林さんが近くにいるから心強いですね」。

林さんの長女真琴さんはずっと欲しかった犬が飼えるので今から楽しみにしているとのこと。「毎年、犬が欲しいってお願いしているのに、犬のかわりに妹が来ちゃうのよね(笑)」とはお母さんの弁でした。



下川さんが帰ってきた

去る12/3(日)、ベイトウン・コア講習室で元コア研代表、下川正治氏の講演会「ソウルで僕も考えた～日本・韓国・北朝鮮」が開かれた。下川さんは元毎日新聞記者で、2年前まで5番街に在住しベイトウンの街作りの牽引役だった。特にベイトウン・コアの建設では当初からコミュニティ・コア研究会(コア研)代表として住民の意見をまとめ、行政との交渉の最前線に立っていた。その理路整然とした合理的な主張と時に強硬とも見える交渉力は、行政側にとっては「ベイトウンで最も怖い男」であり、我々住民にとっては「最も頼りになる男」だった。

氏は記者時代からの専門であった「アジア政治」の研究のため、現在は韓国に住み「韓国外国語大学」で客員教授として勤務している。

今回の講演には久々の「下川節」を聞こうと旧知の住民を中心に約60名もの聴衆が集まった。2年ぶりの下川氏は鬚髯を蓄え「すっかり大学教授らしく」(伊藤元自治会連合会長)になっていたが、ユーモアにあふれ次々に話題が変化する講演術は健在。ベイトウン時代と変わらぬ楽しさで聞き手を魅了した。



1月のコア

1/27
(土)

寺子屋工作ランド

時間：9:30～

場所：ベイトウン・コア 工芸室

持ってくるもの：小刀、工作用具

参加費：50円(材料費)

見本をコアの掲示板に展示してあります。

1/28
(日)

第47回ファツィオリの会

時間：9:30～11:30

場所：ベイトウン・コア 音楽ホール

街の財産であるフルコンサートピアノ「ファツィオリ」を弾けるチャンスです。他の楽器演奏・アンサンブル・

声楽・合唱なども、どしどしお申し込み下さい。見学はご自由に来れます。お出かけ下さい。

演奏申し込み締切日：1月21日(日)

連絡先：阿曾 tel&fax: 211-0273 E-mail: kakuhito@mue.biglobe.ne.jp

ベイトウンニュースは必要か？

2007年元旦 年頭のごあいさつに代えて

あけましておめでとうございます。昨年1年間ベイトウンニュースをご愛読いただきありがとうございました。今年もよろしく願います。

型通りの新年の挨拶をさせていただきましたが、実は今年2007年はベイトウンニュースは1年間通してで発行されるかどうか未定です。

本紙ベイトウンニュースは1997年に創刊され、読者のみなさんと、何よりも配布にご協力頂いたサポーターの皆さんのおかげで今年6月、10周年の節目を迎えます。創刊時は街作りが手探りで進むなか、「情報の共有」を第一の目的とし、主に「問題提起」型の新聞を目指してきました。

しかし良くも悪くも街作りがひととおりの終わった現在はベイトウンニュースの役割も街のイベント紹介など「生活利便紙」へと変化し、創刊時に編集委員が求めたものとの間には少し距離ができてきているように思えます。

それにもかかわらず今日まで発行を続けてきたのは、「最低10年間はつづけよう」との編集委員間の目標があったからです。しかしその期限も今年5月の120号の発行をもって果たされます。これからさらに発行を続けるには、惰性ではなく編集委員の心を燃えさせる新たな目的が必要です。街作りのなかで、今もベイトウンニュースは必要とされているのか。今年2007年6月までそのことを問い続けながら編集をつづけます。

ベイトウンフォーラム2006報告より

昨年(2006年)10月ベイトウンニュース編集局に、『幕張ベイトウンフォーラム2006◆まちづくりのこれからの10年◆』と題する70頁を超える手作りの冊子が届けられた。昨年5月14日に、ベイトウン祭りと並行して開催されたベイトウンフォーラムの記録集だ。冊子をまとめたのは、フォーラムの実行委員会の一人で、総司会を務めた辻さん(8番街)。この記録は、フォーラムの発表/発言内容をテープから原稿に起したものを中心に、事前アンケートの集計や各種資料を集大成したものだ。今はまだ限られた関係者に配布されたのみで、一般の方は目にはできないが、近々ベイトウンコアの図書館にも置くことを検討中とのことなので、皆さんが目にすることができる日も近いだろう。フォーラム主催者のベイトウン自治会連合会の吉識会長と、前出の辻さんに話を伺った。

「ベイトウンという自他共に認める良いハードに10年間住んでみて、いろいろな問題点や、「住みよい街とは?」が見えてきたと思う。それを受けて、自治体への陳情型ではなく、ユーザーとしての住民主体の見直しができれば、という想いでこのフォーラムを主催した」と語るのは吉識さん。その言葉には、ベイトウンの管理が千葉県企業庁から千葉市へ移管される予定の平成22年まであと4年と迫り、今までのゴミ収集、街灯、歩道のタイルなどのハード面での“特別扱い”が、千葉市の通常の規格のものに代えられることや、街作りへハード/ソフト両面で支援してきたデベロッパーが撤収(開発終了)してしまうことへの危機感が感じられる。

また、辻さんは「このフォーラムをきっかけに、タウンマネジメントの機運が高まってくれば良いと思う。三丁目公園の運営委員会もその具体的な活動のひとつとして定着してきた。これからの10年のソフトを考える、違った形のコア研(編集部注:ベイトウン・コアのハード/ソフトを住民主体で考え、リードした『コミュニティコア研究会』の略。その流れは、第1部発表者の大垣さん、隅山さんなどに引き継がれている)ができれば良いと思っている」と語る。お二人に共通するのは、「自分達の街のことは、人任せにはできない」という想いだ。こうして投げられた一石に、どう応えていくのか、ベイトウンの真価はこの先の10年で試されるのかも知れない。

今年2006年5月14日に「ベイトウンフォーラム2006」が開かれ、1995年の街開きからこれまでと、新しい街づくりをめざすこれからの10年にそれぞれの思いが述べられた。130名を超える参加者で、シニアクラブの会員の顔も多く見られた。他の地域に比べて、街づくりの原点である“人々の出会い”は、ベイトウンのお祭りのあの人出を見ればかなり進んでいるように思える。が、10年を越えれば、街の設備の経年劣化も目立ちはじめる。生活環境の維持向上はまだこれからである。

住民参加によるフォーラムの第1部では、コアのコンサートなど大垣真利子さん・隅山雄介さんの文化活動、街路樹調査や公園のみどりの環境へ取り組んでいる山木和子さん・那須智子さんの活動報告、ベイトウンで学び育った富川真希さんが若者の視点から報告した。第2部では住人の土堤内昭雄さん(11番街)、角幡玲子さん(6番街)と樺田直樹さん(公園東の街)をパネリストとして、千葉大学工学部の原昭夫先生のコーディネーターによる討論が繰り広げられた。

原コーディネーターがまとめとして、年代エイジングという概念、成長と時間、関係、ふるさとなどのキーワードがあり、人も街も10年経てば10年歳をとって行くことを念頭に置いて、思いを形にしていくコミュニケーションと与えられたデザインを使いこなし、まちも人も持続可能なシステムを考えていこうと纏めた。番外としての打ち



吉識さん、伊藤さん、辻さん(左から)

上げのパーティーでは、街道型のまちづくりの評価、商店街との調和など設計・開発の方々や住宅供給デベロッパーと住民の意見交換があった。

福祉や高齢化について方向性や取り組みの認識はできたとしても、ディスカッションに食い足りなかった印象も多いだろう、具体的な仕組みが必要である。このフォーラムの後、樺田さんが呼び掛けてマンション管理士によるマンション管理セミナーが8月20日に開かれた。各番街の管理組合の方々が集まり、大規模修繕やマンション管理・トラブルの事例など意見交換の場を持った。

また、自治会連合会では福祉委員会を立ち上げ、伊藤正昭さんを委員長としてミーティングが持たれ、9月には第3回委員会で真砂地区の地区部会活動の事例を参考に社会福祉協議会打瀬地区部会を検討するなど動き始めた。

フォーラムでも意見が出たとおり、2万6千人の意思決定を踏まえて、住民自らまちづくりと街のマネージメント、一種の経営維持を担っていかねばならない。原教授のコメントのようにいつまでもお客さんで、きれいな街に住んで価値が上がっていくと良いと、漠然とっていないだろうか。5年後10年後の自分の生活環境の継続維持をこのフォーラムを契機に口に出して考え、あるいは書き出して、出来ることを行動に移していきたい。

ゴミの問題、買物や交通手段、健康・医療の問題、高齢独居となった場合の日常の支え、成人後見人制度など財産管理など、先の高齢者福祉アンケートでも意見が出されたが、エイジングを高齢化として後ろ向きに考えるより長寿と捉え、また行政や誰かが与えてくれると思うより、わがまち幕張ベイトウンに適合したこれからの仕組み仕掛けを住民も、住宅事業者も、行政も一緒に勉強し、ベイトウン・コミュニティという社会を構成する個人個人が力を出し合って行ける参画意識とタウンマネジメントのシステムづくりをしていきたいものである。そのためには番街の自治会・自治会連合会あるいはシニアクラブなど地域の活動に関心を持つことがこれからの10年の第一歩ではないだろうか。(辻さん後書きより)

